小・中学校国語教科書に見る読書の系統的指導の在り方

～平成１４年度使用開始教科書を中心に～

The Systematic Instruction on Reading of Japanese Readers for Elementary and Junior High schools

～ Specifically on the Readers of Heisei 14 ～

中嶋真弓（Mayumi NAKASHIMA）

１．　学習指導要領に見る義務教育９年間の読書指導の系統性

平成 10 年に改訂された小学校・中学校の学習指導要領には，読書を重視する内容が記されている。読書に関しては，以前からその重要性が叫ばれていた。その一つとして，昭和 43 年（中学校昭和 44 年）に改訂された学習指導要領も読書の充実を図る内容となり，読書ブームが起こった。しかし，増田信一によれば，「当時の国語教科書には読書単元が大幅に登場したが，個別的であるべき読書指導が画一的な教科書教材の影響を強く受け過ぎた結果，学習者自身の主体性や読書習慣の育成は結実しなかったので，読書指導は国語科の中で定着するまでに至らず」[1]という実態があった。そして，今回の改訂によって，再度読書指導の重要性を打ち出しその充実を図るべく取り組まれたのである。その必然に対して，府川源一郎は，「情報化社会の中で，これからますます読書活動の重要性が増すこと，これまでの読むことの教育が『詳細な読解』に偏りがちだったことへの反省などが，その背景にあった。こうした動きを受けて，国語の教科書も読書指導を取り入れた新しい教材の開発や読書紹介の充実を図るように変わってきた。」[2]としている。

では，平成 10 年に改訂された学習指導要領には，どのような読書に関わる内容が記されているのであろうか。小学校・中学校の義務教育９年間で見ることができるように以下のように整理してみた。

≪小学校≫

【第１学年及び第２学年】

〈目標〉：（３）楽しんで読書しようとする態度を育てる。

〈内容〉：ア　易しい読み物に興味をもち，読むこと。

〈内容の取扱い　言語活動〉：昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと・自分の読みたい本を探して読むこと

【第３学年及び第４学年】

〈目標〉：（３）幅広く読書しようとする態度を育てる。

〈内容〉：ア　いろいろな読み物に興味をもち，読むこと。

〈内容の取扱い　言語活動〉：読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと・疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むこと

【第５学年及び第６学年】

〈目標〉：（3）読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

〈内容〉：ア　自分の考えを広げたり深めたりするために，必要な図書資料を選んで読むこと。

〈内容の取扱い　言語活動〉：読書発表会を行うこと，自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むこと

〈第３　指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い〉

（6）読書意欲を高め，日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに，他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。なお，児童の読む図書については，人間形成のため幅広く，偏りがないように配慮して選定すること

≪中学校≫

【第１学年】

〈目標〉：（3）読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

〈内容〉：オ　文章に表れているものの見方や考え方を理解し，自分のものの見方や考え方を広くすること。

カ　様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること。

【第２学年及び第３学年】

〈目標〉：（3）読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

〈内容〉：エ　文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつこと。

オ　目的をもって様々な文章を読み，必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。

〈第３　指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い〉

（4）ア　目的や意図に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てるようにすること。その際，広く言語文化についての関心を深めるようにしたり，日常生活における読書活動が活発に行われるようにしたりすること。

エ　言語活動

（ア）様々な文章を比較して読んだり，調べたりするために読んだりすること。

（5）学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。

（下線は，筆者による。）

平成10年に改訂された学習指導要領を受けて，平成14年度から使用開始となる教科書は小学校・中学校同時発行である。

そこで，本小論は小学校・中学校の読書指導の系統的指導について読書単元を中心にその系統の在り方を見ていくものである。これによって，義務教育９年間の読書指導の在り方を見ることができるとともに，今後の読書指導への指針となると考えるからである。

調査対象教科書は，小学校・中学校で発行されている共通発行者である，［東書］・［学図］・［教出］・［光村］の４発行者の平成14年度使用開始教科書とする。

分析の観点は，①読書への意欲付けがどのようになされているか　②図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方がどのように指導されているか　とする。この２観点としたの

は，上記の学習指導要領の中で，一重線で示した部分は，そのようにさせるためにどのような意欲付けがなされているか，二重線で示した部分は，そのような技能や知識を身に付けさせるための指導がどのようになされているかを見ていく必要があると考えたからである。

２．　平成14年度小学校教科書に見る読書指導の在り方

第２章では，小学校での読書単元がどのように提示されているかを，上記に記した①「読書への意欲付けがどのようになされているか」　②「図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方がどのように指導されているか」の観点から究明していくものである。

２－(1)　読書単元の採録の在り方

各教科書の読書単元は，以下の単元名のもと採録されている。

［東書］

・１年上：おはなしたのしいな

・１年下：五　おはなし大すき　◇どくしょのまど「本をたくさんよみましょう」

　　＊「本のお花ばたけ」をつくりましょう

・２年上：五　おもしろかった本を教えてあげよう　◇読書のまど「おもしろい本を読もう」

　　＊「読書ゆうびん」を出そう

　　◆「図書館に行ってみよう」書架の写真と本を読んでいる挿絵がある。

・２年下：四　むかし話のおもしろさを　◇読書のまど「むかし話を読もう」

　　＊お話会をひらこう

・３年上：四　短いことばで本をしょうかいしよう　◇読書のまど「世界の民話を読む」

　　＊本のおびを作ろう

　　◆「図書館へ行こう」本を借りる手続きやマナーについて挿絵を交え記してある。

・３年下：四　命の大切さを　◇読書のまど「命の大切さを考える」

　　＊読書会を開こう

・４年上：四　本のしょうかい文を書こう　◇読書のまど「ふしぎな世界を楽しむ」

　　＊「おすすめの一さつ」を書こう

　　◆「図書館へ行こう」図書館で読みたい本を探す方法が挿絵を交えて記してある。

・４年下：四　愛の心を　◇読書のまど「愛の心を知る」

　　＊読書カードを作ろう

・５年上：四　読書感想文を書こう　◇読書のまど「自然を愛する」

　　＊読書感想文を書こう

　　◆「図書館へ行こう」日本十進分類法を活用して分類の説明がしてある。

・５年下：四　人間の生き方を　◇読書のまど「自分の未来に夢を持つ」

　　＊読書発表会を開こう

・６年上：四　本を読んで考えたことを書こう　◇読書のまど「助け合って生きる」

　　＊読書を通して考えたことを書こう

◆「図書館へ行こう」国立国会図書館等の紹介がなされている。また，博物館や資料館への啓発もなされている。

・６年下：四　作家と作品をかかわらせて　◇読書のまど「一人の作家を追って」

＊読書計画ノートを作ろう

［東書］は，各学年に２単元読書を位置付けている。そして，そこには必ず◇印「読書のまど」があり，４冊ほど解説を加えた本の紹介が位置付いている。また，「読書のまど」の後には，＊印言語活動が位置付いている。さらに，上巻には◆印「図書館へ行こう」のような利用指導に関わる働き掛けもなされている。整理するならば，［東書］の読書単元の提示は，「単元の趣旨→教材→読書のまど→言語活動→（上巻のみ）図書館へ行こう」となっている。各単元に採録されている教材は，４年までは，昔話・民話・物語が中心である。５・６年では，マザー・テレサや宮沢賢治の伝記，「ヒロシマのうた」などがある。なお，＊印＝言語活動・◇印＝本の紹介・◆印＝利用指導関係は，今後説明がない限り，ここで使用した印を活用する。

［学図］

・１年上：おはなしをききましょう　こんなおはなしききたいな

◆「としょしつにいこう」書架の写真と本を読んでいる挿絵がある。

・２年上：４　楽しんで読もう

＊すきな本のポスターを作ろう　　◇読もう・楽しもう（読書あん内）

◆「図書室たんけん」本の借り方とルールが説明されている。

・３年上：４　進んで読もう

＊本のおびを作ろう　　◇読もう・楽しもう（読書あん内）

◆「じょうずにさがそう」図書館にどんな種類の本がどこにあるかをマップで紹介している。

・４年上：４　進んで読もう

＊本のしょうかい新聞を作ろう　　◇読もう・楽しもう（読書案内）

◆「じょうずにさがそう」検索の仕方を具体例を挙げて説明している。

・５年上：４　読み深めよう

＊ブックファイルを作ろう　　◇読もう・楽しもう（読書案内）

◆「どうやってしらべようか」図書館・博物館・コンピュータ等探し方の具体を提示している。

・６年上：４　読み深めよう

＊テーマを決めて読書発表会をしよう　　◇読もう・楽しもう（読書案内）

◆「どうやってしらべようか」５年上と同じ内容。

［学図］は，読書単元を上巻に設定し３年・４年，５年・６年を同一単元名としている。そして，読書単元の前の単元に図書館関係の教材（調べ学習）を採録している学年もある。２年上「図書室に行こう」３年上「図書室を利用して調べよう」４年上「図書館を利用して調べよう」５年上「いろいろな方法で調べよう」６年上「いろいろな方法を使って調べよう」がそれである。読

書単元の提示は,「(前単元で) 図書館に関わる単元の提示 (全学年ではない) →教材 (物語中心) →言語活動→読もう・楽しもう (読書案内)」となっている。

[教出]

・1年上:おはなしたくさん

・1年下:二　本をよもう

　　＊「おはなしどうぶつえん」をつくろう

・2年上:三　読むおもしろさ

　　◆読書のひろば　図書室へ行こう

・2年下:二　本を読もう

　　＊読書のひろば　「お話びじゅつかん」を作ろう

　　◆付録　読書のひきだし (本の紹介)

・3年上:三　調べる楽しさ

　　◆読書の広場　目次をひらこう

　　◆付録　お話ゲーム (本の紹介)

・3年下:二　本の世界を広げよう

　　＊「読書おすすめカード」を活用しよう

　　◆付録　読書の引き出し (本の紹介)

・4年上:三　調べる楽しさ

　　＊読書の広場　「じょうほう黒板」を作ろう (日本十進分類法の提示)

・4年下:二　本の世界を広げよう

　　＊読書の広場　「お笑いけいじ板」を作ろう

　　◆付録　読書の引き出し (本の紹介)

・5年上:三　求める喜び

　　◆読書の広場　おもしろさのひみつをさぐる

　　＊帯紙作り

・5年下:二　本の世界を深めよう

　　＊読書の広場　「読書発表会」をしよう

　　◆付録　読書の引き出し (本の紹介)

・6年上:三　求める喜び

　　＊読書の広場　新しい世界と出会おう

・6年下:二　本の世界を深めよう

　　＊読書の広場　「読書座談会」をしよう

　　◆付録　読書の引き出し (本の紹介)

[教出] は, 3年上・4年上, 3年下・4年下, 5年上・6年上, 5年下・6年下の単元名を同一にしている。読書単元に採録されている教材は, [東書] [学図] [光村] が多く物語を採録しているのに対して, 説明的文章も網羅している。また, 本の紹介は単元の中で行うとともに付

録としても位置付いている場合がある。さらに，読書単元には，「読書の広場」を位置付けている。これは，言語活動であったり，利用指導的内容を位置付けたりという側面をもっている。各学年２単元が読書単元である。読書単元の提示は，「教材→読書の広場（言語活動と利用指導的内容とがある）→付録による本の紹介（下巻中心)」である。

［光村］

・１年上：おはなしよんで

＊こんなほんをみつけたよ

・１年下：本とともだちになろう

＊この本，おすすめします

・２年上：四　すきなお話を読もう

・２年下：二　お話，大すき

六　本は友だち

・３年上：一　友だちと出会う，本と出会う

四　集まれ，世界のお話

◆本のさがし方（本の分類について説明がしてある。）

◇どの本よもうかな（本の紹介・・９冊の本の表紙の写真と数冊の本の解説がある。）

＊本のおびを作ろう

・３年下：二　動物と人間のかかわりを調べよう

＊パンフレットを作ろう

・４年上：四　本の世界を広げよう

◆本のさがし方（本を探す具体的な方法として，目録・コンピュータ・カードがあることを紹介している。）

◇どの本よもうかな（本の紹介・・上記内容と同様）

＊ポスターをかいて，作品をしょうかいしよう

・４年下：三　調べたことをほう告しよう

▲読書単元ではないが，調べたり調査したりしたことをまとめ発表する学習である。この中に，「四年一組の読書生活」の文章がある。

・５年上：四　読書の楽しさを伝え合おう

◆◇本と出会おう（本の探し方を提示＋本の紹介＋読書感想文の書き方を僅かではあるが提示している。）

＊読書発表会を開こう

・６年上：四　作品と出会う，作者と出会う

◆作家と作品に出会おう

＊「作家と作品」展示コーナーを作ろう

［光村］の読書単元は，ほとんど物語を扱っている。読書単元の提示は，「教材（物語中心）→本の探し方等（本の紹介もある）→言語活動」である。取り立てて「～をしよう」という言語

活動的な働き掛けがない学年においても，例えば２年上「すきな絵本をさがして読みましょう。」などの学習活動を随所に位置付けている。

２－(2)　読書への意欲付けの在り方

本項では，前述した観点の①「読書への意欲付けがどのようになされているか」について見ていくものである。

［東書］の１年上では，「おはなしたのしいな　おはなしききたいな」とあり，見開き２頁分を使って読み聞かせ風景の挿絵が載せられている。これによって，入門期の子ども達の意欲を掻き立てている。また，読書を楽しくする手立てとして言語活動に工夫がなされている。言語活動は大きく２つに分類できる。①は「読書記録」的なもの・・書く活動　②は，読んだ内容を発信したり交流したりするもの・・話す活動。もちろん前者も，書いて発信するという面はあるが，「記録」という観点で整理してみた。読書記録的なものでは，１年下「本の名前」２年上「おもしろい本を友達に郵便で紹介」３年上「本の帯」４年上「心に残った本の紹介文」４年下「読書カード」５年上「読書感想文」６年上「何冊かの本を読み，考えたことを文章にまとめる」６年下「読書計画ノート」がある。

交流では，２年下「お話会」（面白い昔話を読んでみんなに伝える。そして，みんなに感想を尋ねる。）３年下「読書会」（みんなで同じ本を読んで感想を交流する。）５年下「ポスターセッション」がある。この両方の言語活動によって，「個人の読書の楽しみ」とともに，「共有する楽しみ」の両面から読書意欲を高めていると言える。

［学図］も［東書］同様１年上での最初の読書単元は見開き２頁を活用して読み聞かせ風景の挿絵が載せられている。また，言語活動は［東書］同様①②に分類できるのであるが，①の活動を多く位置付けている。①では，２年上「ポスター」３年上「本の帯」４年上「新聞」５年上「ブックファイル」がある。②は，６年上にある「読書発表会」（ブックトーク）のみである。

［教出］は，各単元のはじめに単元の扉を位置付けている。例えば，１年上には，本文の一部が載せられておりその後に「・・・どんどん本を読みたくなってきた。」２年下「今度はだれかに本を読んであげたくなった。」「もっと調べるにはどうしたらいいのかな。」とある。これは，子ども達に投げ掛けながら，読書につなげていく方法がとられている。言語活動では，［学図］同様５年生までは，書く活動を中心とし，６年生に「読書座談会」を入れている。

［光村］では，１年下「この本，おすすめします」のようにみんなに読んで欲しい本のカードを作成する，３年上「本の帯」３年下「パンフレット」４年上「ポスター」５年上「読書発表会を開こう」６年上「『作家と作品』展示コーナーを作ろう」などの言語活動が位置付いている。５年上に読書発表会が入っているが，その他は書く活動となっている。また，本文に，１年下「きょうかしょにないことばをかんがえましょう。」３年上「音読はっぴょう会をしましょう。」３年下「せんそうのことを知っているひとにしょうかいしましょう。そして，せんそうのころのはなしをきかせてもらいましょう。」５年上「自分が興味をもつ分野のことについて，本をさがしてよんでみよう。」など，多様な方法・内容を子ども達に提示している。やることが分かる時，子ども達は意欲的に取り組む。多くの引き出しを子ども達が選択しながら行う学習は，意欲的に取

り組む一つの方法だと言える。

以上のように，読書意欲を高める工夫として，次のような傾向が見られた。

・１年の導入期は「読み聞かせ」をイメージさせる挿絵を活用し，「読み聞かせ」の充実を図る。これは，入学前における読書習慣を想起させる意味においても効果があると考える。

・１年から６年までの学年発達に応じて，個人での読書を友だちや周りの人に広め共有しながら，より読む楽しみを広めていく。

・発信の方法としては，交流による話し合いや読書発表会，何かを作成するなど学びを生かし発信できる言語活動が位置付けられている。

・「読書記録」「読書感想文」につながる活動を１年から行うことによって，読書の成長を感じ取ることができるようにしている。

読書意欲を高めるためには，いろいろな方法を子ども達に提供し，読む楽しみ，読んだ後の楽しみ方を引き出しとしてもたせることが大切ではないかと考える。

２－(3)　図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方の指導の在り方

２－(3)－①　図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方

本項では，②「図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方がどのように指導されているか」の「図書資料の探し方の指導がどのようになされているか」を見ていくものである。探し方の指導は，「利用指導」に関わる働き掛けが重要になってくるために，教科書に見られる利用指導を中心に見ていくこととする。

［東書］では，各学年の上巻に「図書館へ行こう」という項目を設定している。この指導を見ていくと「２年：図書館の紹介（おもしろい本がある場所）→３年：図書館のルールとマナー→４年：本の探し方（司書に聞く・目録で探す等の具体的方法を提示）→５年：目的の本を探す方法（日本十進分類法の提示）→６年：調べるための方法（図書館以外で調べる方法を具体的に提示）」である。段階を追って具体事例を挙げながら提示していることが分かる。

また，「読書のまど」で本の紹介をしているが，子ども達にとってこの働き掛けも「読んでみよう」とする意欲付けであると同時に，「これらの本を図書館で探してみる」「読んでみたい本として選ぶ」という行為につながるものと言える。

言語活動でも，「本の帯」や「読書カード」を実際に作成しているが，これも本を選ぶ時必要な情報となる。

［学図］も［東書］同様読書単元の中に，「探し方」等の技能を付けるように「図書館」関係の教材が位置付けられている。この指導を見ていくと「１年上：図書館の紹介→２年上：図書館のルールとマナー→３年上：本の配置→４年上：検索の仕方（検索カード・コンピュータ・カウンターで聞く）→５年上・６年上（図書館・博物館・コンピュータ等探し方等の具体を提示）」となっている。また，前述したが，読書単元の前の単元に図書館について位置付けている点は特徴である。２年上に採録されている「図書館に行こう」では，「ホタルの一生」について知りたいという設定で，図書館で本を探し読んでみんなに発表するという単元を設定している。また，４年上「図書館を利用して調べよう」では，２年の調べ学習と大きな違いはないが，学校の図書

館だけでなく他の図書館でも調べるように促している。さらに，６年上では，「いろいろな方法を使って調べよう」の中で，調べたいことを整理し，それを図書館や博物館等で調べるようにしている。つまり，教科書中の登場人物と一緒に活動するという「体験型」の方法によって読み方を身に付けさせている。

また，「読もう・楽しもう（読書案内)」では，［東書］の「読書のまど」と同様４冊程度の本を解説付きで紹介している。

［教出］は，２年上「図書館へ行こう（本を探す時本の種類や題名を手がかりに探す)」３年上「目次をひらこう」(目次や索引を参考にして調べてみる。）特にその本の見方を中心に取り上げている。５年上「おもしろさのひみつをさぐろう」(図書館以外での調べ方として，インターネット・博物館等の具体が挙げられている。）では，大まかに調べ学習の仕方を提示している。

［光村］は，２年上で図書館の挿絵とそこで本を読む子どもの挿絵を提示している。そして，中学年に「本のさがし方」として，本が分類で分けられていることを理解させ，その中から本を探すためには目録やコンピュータを使うという方法について記している。高学年ではそれを確認するという位置付けになっている。

以上のように，図書資料の探し方等の指導には次のような傾向が見られた。

・低学年で学校図書館の存在を意識させ，低学年後半から中学年にかけて，学校図書館の活用の仕方をマナーやルールといった内容と本がどのように図書館の中で位置付いているかを理解させている。そして，そこから本をどのように選ぶかを具体的な方法を提示して自ら活用できるようにしている。さらに，高学年では，その活用を確認したり，学校図書館以外にも探し方があることに触れたりして，読書の幅が広げられるようにしている。

このように，学年発達に応じて，具体的な提示をしながら指導にあたることが重要と言える。低学年の早い段階で学校図書館の活用の仕方を指導しておくことは，公共の図書館や博物館へ行った時に役立つものである。そして，図書資料の探し方等は，今後ますます情報化社会が進むにつれ，大切な能力になってくると思われる。そのために，今後の指導の在り方として，探し方とともに，どのような資料を探すのか，どのような多くの資料の中から判断するのかといった能力を付けていく方法も網羅していく必要があるのではないかと考える。

２－(3)－②　読み方の指導

本項では，②「図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方がどのように指導されているか」の「図書資料を読むための指導がどのようになされているか」を見ていくものである。

［東書］では，単元の冒頭見開き半頁を使用して，その単元でどのような学びをするかを載せている。例えば，１年下「じぶんも，おはなしに出てくるどうぶつや人といっしょになって，わくわくしたり，どきどきしたりします。」３年上「世界のかく地で，長く語りつたえられてきた話には，日本とそっくりの話もあれば，その国ならではの，めずらしい話もあります。」４年下「さまざまな愛の心を知ることによって自分を見つめ，少しずつ成長していきます。その一つ一つがわたしたちを勇気づけ，人間らしい生き方とは何かを考えさせてくれるからです。」５年下

「自分の未来に夢を持つことのすばらしさがよく分かる。」６年上「人間の生き方を考えさせてくれる。」これらを見ていくと，低学年では，本を読む楽しさ，中学年では，本と自分との関わりの中で自己の成長につながる読書，高学年では，社会の中で生きる自分や自分の生き方について考える読書のよさや意義について述べられている。つまり，単元冒頭で読書の仕方を提示し，「学習のてびき」でそれに関わる本を読むことを誘い，その具体的図書の紹介を読書のまどで行っているのである。これによって，子ども達は学びの道筋に沿って，一貫した方向性をもって読書に向かうことができるのであり，それによって６年間で様々なねらいやテーマをもった読書を体験することができるのである。そしてこれらが，ひいては読書の質を高め子ども達に自覚させた読書となると思われる。

［学図］では，低学年の段階で「不思議なこと・もっと知りたいこと」について調べるための読書について取り組んでいる。中学年では，外国の作品にも目が向くように働きかけている。また，高学年では，テーマを設定した読書や歴史や人間の生き方について考えるための読書をするよう促している。

［教出］では，「どうぶつのでてくる本をよんでみましょう。」と１年の段階から，「おもしろい本」という漠然とした表記ではなく，具体を示して読ませようとしている。また，単元の扉の中で数行その単元に必要な情報を載せている。例えば，５年下「テーマを決めて，本のしょうかいをしてみようかな。」というように，テーマをもって読書に臨むことを提示し，方向性を示している。さらに，「読書の広場」の文言に，低学年では「おもしろい本・心に残った本」を読むように促し，中学年では，調べるために読むことが必要であることを示し，その具体的な調べ方を提示している。そして，高学年では，テーマを設定した読みとして，同一作者の作品や「戦争」というテーマで資料収集し，整理して発表するようにしている。

［光村］は，１年上の最初の読書単元の本文に，「がっきゅうぶんこで，むしのほんをみつけたよ。いっしょによもう。」とある。物語ではなく，４分類の本にも目を向けさせている。これは，［教出］の「動物」と同様に，早い段階から児童の興味ある所から読書をさせていこうとしていることが分かる。意欲付けであると同時に，次の「幅広い読書」につながる働き掛けと言える。また，例えば，２年上でレオ＝レオニを学習した教材では，「レオ＝レオニの絵本には，『せかいいちおおきなうち』『コーネリアス』などがあります。ほかにも，図書室で，『おもしろそうだな。』とおもう本をさがして，読んでみましょう。」とある。同作者の作品を読む見方をここで示している。［光村］は，単元名の下に数行この単元で学ぶべき内容を記している。例えば，２年上「あとで，おもしろそうな絵本を探して，読み合いましょう。」６年上「宮沢賢治のどんな生き方や考え方が分かるだろう。作品と作者に出会い，読書の世界を広げよう。」とある。これも，読む方向を知らせる大事な手立てと考えられる。［教出］でも前述したように「単元の扉」の位置付けについて触れたが，［教出］が「この本の続きを読んでみたい」という興味ある提示をしているのに対し，［光村］では，こういう点を考え，その発展として～をする」という一連の学習過程を提示しているとも言える。

以上のように，図書資料の読み方の指導には次のような傾向が見られた。

・単元の窓などで，本単元でどのような学びをするかの提示がなされている。これによって，どのような本の見方をすればよいのか子ども自身が分かる。
・「おもしろい」「誰々の作品」「～の本」「テーマを決めての読書」等々の視点をもった読書をさせることによって，その本の見方の指針を与えることができる。

読書する喜びとして，そのものの作品を楽しむことはもちろんであるが，読書する意義，読書によって自己自身の向上につながるという考えは子ども達にはないと思われる。しかし，小学校段階で，楽しい読書，少しでも幅広い読書を体験させておくことが中学校さらには，生涯の読書人を育てるために重要である。

小学校は，多様な言語活動を行う中で，読書の楽しみ方，そして，読書によって豊かになることを体得していく段階であった。

では，中学校では，どのような指導がなされているだろうか。次の章で見ていくこととする。

3．　平成14年度中学校教科書に見る読書指導の在り方

第３章では，中学校での読書単元がどのように提示されているかを，前述した①「読書への意欲付けがどのようになされているか」　②「図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方がどのように指導されているか」の観点から究明していくものである。

３－(1)　読書単元の採録の在り方

各教科書の読書単元は，以下の単元名・教材名のもと採録されている。

［東書］
・１年：３　読書を楽しもう
　　＊〔読書〕読書紹介をしよう　　◇〔読書案内〕見よう　読もう　楽しもう
・２年：３　読書で視野を広げよう
　　＊〔読書〕本の帯を作ろう　　◇〔読書案内〕見よう　読もう　楽しもう
・３年：３　読書で考えを深めよう
　　＊〔読書〕ブックトークをしよう　　◇〔読書案内〕見よう　読もう　楽しもう

［東書］は，各学年３の単元で読書を位置付けている。作品を２冊ずつ採録している。1年：小説・シナリオ，２年：小説・随筆，３年：小説・説明文である。そして，各学年に〔読書〕として言語活動が位置付けられ，さらに〔読書案内〕では，30 冊前後の本の紹介がある。本の紹介は，一冊につき３～４行の解説が付いている。読書単元の提示は，「単元の扉→小説→説明文等→〔読書〕→〔読書案内〕」である。

［学図］
・１年：読書１（小説）　　読書２（評論）
・２年：読書１（小説）　　読書２（随想）
・３年：読書（随想）

［学図］は，１・２年に「読書１・２」を採録し，３年のみ１単元としている。採録されている読書単元は，それぞれの作品を読み物として扱い，それに関わる課題や働き掛けはなされてい

ない。この提示について［学図指導書］には，「『このように生きたい』『前向きな生き方をしてみたい』という考え方を生徒に伝えるのは，国語科のみの役割ではないが，国語科が最も大きな役割を果たすべきであることは確かである。そして，それは読解教材の中で，教条的に指導していくよりも，読書案内的に読んでいく中で，自然な形で感じ取らせていくことが有効であろう。そんな意味で，『生きる力』を身につけさせていくための重要な教材として位置付けられる。」[3]とある。しかし，［学図］の読書に関わる働き掛けは，読書単元以外に見られる。［学図］に関しては，３－(2)(3)において，読書単元ではないがそれらの働き掛けから述べていくこととする。

［教出］

・１年：読書室（物語）　　読書室（評論）

・２年：読書室（小説）　　読書室（評論）

・３年：読書室（説明文）

［教出］は［学図］同様１・２年に「読書室」を２単元採録し，３年のみ１単元としている。読書室では作品を提示しているがその後に，読書に関わる文章，１年「読むことは生きること」「自分らしさを発見しよう」２年「想像の世界へ」「自分と自分」３年「認識を深めるために」が続き，その中に何冊か本の紹介もなされている。読書単元としては，このようであるが，その他に，１年では，「自分だけの『情報』を発見しよう」の中に「不思議な出会い　図書館散歩」があり，２年では，「自分だけの一冊を見つけよう」で，本から抜粋された文章が提示されている。さらに，付録として，「読書案内」がある。

［光村］

・１年：本の世界を広げよう（小説・詩）　　＊読書座談会

・２年：本の世界を広げよう（小説・解説）　　＊ブックトーク

　　本の世界を広げよう（説明文）　　＊読書郵便

・３年：本の世界を広げよう（小説・小説）　　＊読書アンケート

　　本の世界を広げよう（説明文）　　＊読書生活を振り返る

［光村］は，読書単元を１年１単元，２・３年２単元としている。全て読書単元は，「本の世界を広げよう」という単元名で通している。読書単元の提示は，［東書］と同じようで，「教材→言語活動」となっている。そして，その言語活動の中に，本の紹介を入れている。

［光村］では，読書単元ではないがＡ領域の学習で「私の一冊を紹介しよう　紹介のスピーチをする」という単元がある。この中に，「図書館へ行こう」と図書館で本を探し，そこで選んだ本をポスター・新聞・本の帯などの方法で紹介するという学習がある。また，そこには，読書の記録を残そうと読書カードの記述例も載せられている。

３－(2)　読書への意欲付けの在り方

本項では，①「読書への意欲付けがどのようになされているか」について見ていくものである。

［東書］は，単元名にある「楽しむ」「視野を広げる」「考えを深める」ために，どのような見方をすればよいかといった学習の仕方を，「学習の課題」として見開き半頁に提示している。これによって思考の仕方が分かり主体的な読書につながると思われる。そして，これは，同時に作

品への迫り方・読み方にもつながるものである。言語活動として，「読書紹介をしよう」があるが，これは，読書記録でそれを他の人に勧めたい本として紹介し合うという活動である。小学校低学年から読書記録の指導がなされているが，中学校段階でもそれを受けてその指導がなされている。

［学図］では，前述したように読書単元には読書に関わる働き掛けはないが，他の単元の「学習のてびき」（［学図］では，「学びの窓」となっている）の多くに，「読む　理解を広げる」「読む　理解を深める」「調べる　理解を深めるために」「話し合う　理解を深めるために」などと読書に関わる働き掛けを別枠で提示している。これは，読み方にもつながるが，生徒達にやってみようという意識付けができると考える。

［教出］では，作品の次に読書に関わる文章が続くのであるが，その中に本の紹介がある。一つのテーマに沿って次々に作品が紹介されるのであるが，テーマ性があり，一冊読むとそのつながりで読んでみようと思わせる内容提示になっている。

［光村］では，各単元における言語活動が位置付き，自分の思いをいろいろな方法で伝え共有するという楽しみをもたせている。また，「私の一冊を紹介しよう　紹介のスピーチをする」などの単元で，多様な本の紹介の仕方を経験するなど楽しさを味わうことができる。

以上のように，読書意欲を高める工夫として，次のような傾向が見られた。

・小学校と言語活動の重複が見られる。
・小学校同様，具体的な内容提示がなされている。
・読書につながる一連の活動を提示している。

3－(3)　図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方の指導の在り方

3－(3)－①　図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方

本項では，②「図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方がどのように指導されているか」の「図書資料の探し方の指導がどのようになされているか」を見ていくものである。探し方の指導は，「利用指導」に関わる働き掛けが重要になってくるために，教科書に見られる利用指導を中心に見ていくこととする。

［東書］では，「同じ時代を描いた作品を探す」「同一筆者の文章を比較して読み」といった視点をあてた探し方を提示したり，「図書館ではコンピュータを使って目的の本を探す」「出版社の目録や本の帯，新聞の書評や広告も参考になる」といった利用指導の内容を提示したりしている。探し方は小学校でほぼなされているために，中学校では，探す視点についての指示が見られる。

［学図］でも，「学びの窓」の中で視点をあてた探し方を提示している。例えば，『原爆の子』では，「被爆当時のことを書いた本や写真等や，その後の核問題に関するさまざまな資料などに当たって，問題点を話し合おう。」とある。

［教出］では，1年「自分だけの『情報』を発見しよう」の中に「不思議な出会い　図書館散歩」があり，利用指導の内容を位置付けている。ここには，日本十進分類法が提示してあるが，探し方というより，図書館を散歩することも図書館の楽しみ方であり，思いもよらない本との出会いもあるかも知れないと促している。図書館に足が向かなくなった中学生への指導として，再

度図書館に目を向かせる手立てとして大まかに図書館の位置付けを提示していると思われる。

［光村］では，読書単元ではないが，1年「図書館を利用しよう」2年「インターネットの活用」の中で，利用指導を行っている。「図書館を利用しよう」では，日本十進分類法が提示され，本の探し方としての具体的な内容，例えば蔵書目録・コンピュータでの検索，さらには，本が見つかったら目次や索引を見て知りたい情報がどこに書いてあるか見当を付けて読むことも記されている。内容的には，小学校とあまり違わないが，繰り返し指導すべき内容だと言える。

以上のように，図書資料の探し方等の指導には次のような傾向が見られた。

・利用指導の内容は，小学校とほとんど同じである。

・中学校では，本を探す方法ではなく内容的にどのように探すかの視点に重点がおかれている。

・日本十進分類法の掲載においても，小・中両方・小学校のみ・中学校のみ・小・中採録無しという状況が見られる。

3－(3)－②　読み方の指導

本項では，②「図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方がどのように指導されているか」の「図書資料を読むための指導がどのようになされているか」を見ていくものである。

［東書］では，3－(2)でも記したが，「学習の課題」によって，どのようにその作品に迫るとより楽しく読めるかなどの方法を提示している。つまり，どのように読むとよいかといった読み方を，具体的な観点をもたせながら指導しているのである。また，単元の扉には，1年「読書に親しみ，いろいろなものの見方，考え方にふれる。」2年「読書を通して，人間，社会，自然について視野を広げる。」3年「作品や文章全体を読み通したり，複数の作品や文章を読み比べたりして，考えを深める。」とある。これらは言い換えれば読書の意義にもつながるものと言える。単元の方向を明確にすることによって，どのような読み方を学ぶかが生徒にも分かるようになっている。また，付記するが「印象に残った箇所に印や色をつけましょう。」などの細部にわたるこのような指導も役に立つのではないかと思われる。

［学図］では，3－(3)－①に示した視点をもって，調べたり，理解を深めたりするよう指示がなされている。

［教出］では，読書室の後に続く読書に関する文章が，読み方指導となっている。その文章は，読書室で読んだ作品に関わる内容とともに，そのテーマに関係する本を紹介している。テーマ性をもった読みの推進がそこでなされていると言える。

［光村］では，「読書生活の振り返り」の場が設定されている。今までの読書をつなげていく，読書記録をもとに振り返るなどの働き掛けがある。これは，自己の生活を向上させていく方法の提示として，義務教育最後の学年においては大切ではないかと思われる。

以上のように，図書資料の読み方の指導には次のような傾向が見られた。

・［東書］のように具体的な読み方の方法を提示している発行者もある。

・読む時の観点は小学校と同じ場合が多い。

・テーマを設定した読み方や比べながら読んでいく方法が見られる。

4．　教科書に見る義務教育９年間の読書指導の系統性

小学校・中学校の読書単元を中心に「読書への意欲付け」及び「図書資料等の探し方・選び方・収集の仕方及びその読み方の指導の在り方」について見てきたが，多くの場合小学校とあまり変わらない内容で設定されていることが分かった。もちろん学年発達があるが，例えば利用指導では，中学校で再度繰り返しての指導がなされていることが分かった。つまり，これらは，図書館を活用する使い方も含めて繰り返し指導することの重要性からである。読み方は，学年が進むにつれて，作品の見方の幅は拡充していると思われる。このように見ていく時，繰り返し指導すべき内容は何か，学年発達で作品を見る視点はどうあるべきかの系統の在り方を整理してみる必要があるのではないかと考える。そのことを踏まえて，今後どのような指導をしていくことが重要かについて触れておくこととする。

■読書記録は，小学校から行われている活動である。ならば，中学校で具体的な見本の提示をするとともに，自分のオリジナルとして項目でどのようなものが必要か，何を書いておきたいのかを考えさせ，より読書の充実を図ることが大切ではないか。

■「本の帯」作りやブックトークは，これも小学校で行われているものである。中学校の教科書では，「～してみましょう。」という働き掛けのみで詳細な内容は書かれていない。もちろん発達段階に応じてなので，小学校とは違ってくるであろうが，どのような目的で何をどのようにより充実させていくかの指導が重要になってくる。小学校との違い，系統性を生徒にも分かる形で示していきたい。

■読書する楽しみに「おもしろさ」がある。これは年齢に関係ないと思われるが，小学校１年と中学校でも「面白い点を挙げてみよう」という投げ掛けが見られる。とするならば，どのようなおもしろさかをお互いに交流しながら，「そんな読み方もあるのか」「おもしろさも人それぞれで，その人の生き方や見方に関わってくるのか」といった見方や考え方を深めたり広めたりする必要がある。そのような指導なしでは，「おもしろさ」の質はいつまでたっても変わらないからである。

■読書は個人的なものでもある。そのために，自由読書的な単元を入れ，じっくり読ませるという方法もある。しかし，その読みの質を高めるためにはどうあるべきかの具体を子ども達に理解させる必要がある。そのために，読書単元においても具体例を載せ，見方や考え方の幅を広げさせていく必要があると考える。

■各教科書には，本の紹介がなされているが，その本がどの程度読まれているかの調査をしていく必要があるのではないだろうか。

〈注〉

[1]：増田信一『学び方を養う読書の学習』学芸図書　1997.4.15　p.9

[2]：田近洵一他１『国語教育指導用語事典』教育出版　1984.10.25　p120

[3]：学校図書株式会社『中学校国語１　教師用指導書　教材研究編』学校図書　702 教科書対応　p104